

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 4月

事業所名 放課後等デイサービス はっぴい

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		個別の対応が必要な児童に配慮しながら、スペースを有効に活用している。	個別対応が必要な児童に対してはパーテーションで区切ったスペースを活用している。完全な個室ではないため、音などの刺激への配慮が必要。
	2 職員の配置数は適切である	5	1		小集団での活動と個別活動を組み合わせて個々の希望に応えられるよう工夫している。	突発的な行動や他害などが見られる児童一に対しても十分な環境設定が必要。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1			トイレは車椅子が入るスペースと手すりなど配置しているが出入り口が狭いため検討を要す。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			毎朝の打ち合わせにて支援の振り返りをすると共に定期的な会議にて業務改善に向け話し合っている。	定期的なモニタリング以外にも、業務改善のための話し合いを適宜行う必要がある。
	5 アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1		評価表及び年度始めに保護者に要望希望をアンケートでお聞きしている。	アンケート結果を受けて、次年度の業務改善に努めているが、改善が十分でない課題もあるため具体的な方法を検討する必要がある。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6				
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			1	5 第三者による外部評価は実施できていない。	第三者による評価は受けていないため、今後外部評価を受け業務改善を目指したい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	3			今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため研修の機会が減ったが、今後リモートでの研修参加など説教的に受けしていく必要がある。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			利用児童の状況を把握した上で保護者との面談を実施し、個別支援計画書を作成している。	発達段階に合わせ、発達の状況に応じた計画書を作成する必要がある。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			毎朝の打ち合わせにてそれぞれの子どもが興味を持ちそうな活動をスタッフ間で考えている。	希望の活動が固定してしまう場合があるため、支援員から新たな活動提供をして子どもの興味・関心を広げる必要がある。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	2		毎回固定した活動にならないように、様々な活動を組み合わせて提供している。	児童によっては固定した活動の方が落ち着いて過ごせる場合もあるが、活動の幅を広げることが出来るよう活動内容を工夫して、新たな取り組みを行う必要がある。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1		平日利用の際は時間が短く限られた活動になってしまいますが、長期休暇中などは調理、外出など普段できない活動を提供している。	長期休暇中は特に、様々な経験が出来るよう地域に出かけたり調理や季節の行事など様々な活動を提供していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6			子どもの興味・関心や障害の状況を考慮しながら個別活動と集団活動を提供している。	児童の特性によっては、個別活動が主になる場合もあるが、部分的に参加できるような集団活動を立案していくよう努める。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎朝の打ち合わせにて前日の振り返り、その日の支援について検討している。	長期休暇中は、一日を通しての利用となるため、丁寧な打ち合わせと業務分担を確実に行い、工夫する必要がある。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			全支援員が参加できる毎朝の打ち合わせにて前日の振り返りを行い、それぞれが気付いた点について情報共有している。	その日の支援にて緊急に話し合うべき内容についてはその日の内に検討し、全支援員が揃う朝の打ち合わせにて十分に検討している。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日々の支援内容については詳しく記録をしている。	記録を振り返ることでの気づきが多いため、記録を活かして改善に繋げていく必要がある。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等ディイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		実施記録表に基づき、定期的にモニタリング・話し合いを実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4	2	本人の希望する活動も尊重しながら活動提供しており、偏ってしまうことがあるが、定期的に新しい活動を提供している。	ガイドラインにある基本活動を参照し、組み合わせた活動を提供していきたい。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	1	学校への児童の迎えの際に、担任の先生と情報交換をしたり、電話やメールなどで緊急時には連絡を取っている。	時折、休みの連絡などの行き違いがあるため、メールなども活用し確実に連絡調整が出来るように工夫したい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	4	医療的配慮が必要な児童に関して、医師の意見書を確認し対応している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2	相談支援事業所を介して情報提供をしている。	直接、関係機関と連携を取る機会が少ない、ご家族の意向を確認し、情報共有が出来るようにしたい。
	24	学校を卒業し、放課後等ディイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	2	移行前に支援会議が開かれる場合には、情報提供をしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	療育支援センターより事業の派遣に来て頂き、助言を受けながら取り組んでいる。	利用児童の状況に応じて適切な支援が実施できるよう、専門機関と定期的に連絡を取り合う必要がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		現在は実施できていないため、児童・家族の意向を聞いた上で検討していく必要がある。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している		3	佐賀中部地区放課後等ディイサービス連絡会に定期的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳を活用すると共に、お迎えの際に児童の状況を直接お伝えしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	個別面談の中で必要に応じて聞き取り・助言をしている。	保護者より相談があった場合に個々に助言しているが、ペアレント・トレーニングとしては不十分であるので、要望に応えていきたい。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約の際に詳しい説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		年度初めに希望の家族には面談を実施したり、事業所への迎えの際に相談に応じている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		殆どの児童が同じ学校であり、学校での保護者会があるため必要はないとの保護者からの声もあるため、今後意向を確認しながら検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	2		苦情を受けた場合に、誠意を持って迅速に対応しているが、周知できていない場合があるため、状況に応じて説明を行う。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		季節ごとに通信を作成し、活動内容や取り組みについてお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	5	1	ホームページへの写真の掲載などについて、事前に家族の同意を得ている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		利用児童の特性に十分配慮し、スケジュールやカードなどを用いたり、連絡帳を活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	母体となるめぐみ園の行事には地域住民を招待しているが、事業所単独での行事には招待していない。	事業所単独での行事に招待することは出来ていないが、めぐみ園の行事に利用児童の家族や近隣住民が参加されるため、今後もそのような形で実施したい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2		防犯マニュアルについての説明が不十分であるため、保護者に対して説明を行っていく必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年2回、避難訓練を実施している。	
非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	3	職場内・外の研修に参加している。	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により外部研修の機会は減ったが、園内研修に参加している。
	41	このよつは場合にやむを得ず身体拘束を行ふかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		やむを得ず身体拘束を行う場合について計画書に記載すると共に、保護者には詳しく説明をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	アレルギーを持った児童に対しては、学校・医療との連携を取り、指示書に従って対応を取っている。	新規契約児童についても、アレルギーの状況について状況を確認し、家族との連携を取る必要がある。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハット報告書に記載し、全支援員が情報を共有し支援の振り返りに繋げている。	